

氏名	桑野紀子
学位の種類	博士(看護学)
学位記番号	第12号
学位授与年月日	平成27年8月5日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当者
学位論文名	Factors Affecting Professional Autonomy of Japanese Nurses Caring for Culturally and Linguistically Diverse Patients 多様な文化・言語背景をもつ患者の看護における日本の看護職の自律性への影響要因
指導教員	村嶋幸代 学長 福田広美 教授 Lee So Woo ソウル大学名誉教授 小嶋光明 准教授
論文審査委員	主査：佐伯圭一郎教授 副主査：高野政子教授・吉村匠平准教授

Abstract

Objectives: Globalization, which is a worldwide trend, impacts care by nurses as frontline practitioners. Japanese nurses are also faced with care of patients from diverse cultural backgrounds with diverse values and beliefs. To promote the quality of patient care, including better patient outcomes, professional autonomy is an important concept. This study examined how Japanese nurses perceive their experiences caring for non-Japanese patients, and then assessed the professional autonomy of Japanese nurses caring for culturally diverse patients and identified the factors that contribute to this autonomy. The ultimate aim of this thesis is to provide a basis for promoting and ensuring the provision of high quality care to culturally and linguistically diverse patients by Japanese nurses.

Study 1: A qualitative exploratory design with a thematic analysis approach was used to collect and analyze data. Using purposive sampling, 15 (9 Japanese, 6 Korean) nurses who provided nursing care to culturally diverse patients within the past year were selected. Data were gathered using semi-structured interviews. The six steps of Braun and Clarke were followed for data analysis. The following three themes were identified: challenges regarding the care of culturally diverse patients; important components regarding the care of culturally diverse patients; and deficiencies in nursing education for culturally congruent care. Japanese nurses had less experience and provided fewer descriptions than Korean nurses regarding changes in thinking gained through experience caring for culturally diverse patients, and they also expressed feeling anxiety when providing care for such patients.

Study 2: A descriptive cross sectional design was used. Participants included 238 clinical nurses working at 27 hospitals in Japan. The Intercultural Sensitivity Scale, and the Scale for Professional Autonomy in Nursing were used to measure intercultural sensitivity and professional autonomy. Stepwise multiple regression analysis was used to identify the most significant factors affecting autonomy. Professional autonomy of Japanese nurses caring for non-Japanese patients was significantly lower than when caring for Japanese patients (142.84 vs 172.85 ($p < .001$)). Contributing factors were: intercultural sensitivity ($p < .001$), length of nurse experience ($p < .05$), and availability of interpretation service ($p < .05$).

Conclusion: Enhancing the professional autonomy of Japanese nurses caring for culturally diverse patients and improving the quality of care provided requires the establishment of training programs that promote intercultural sensitivity and transcultural nursing education. Based on these conclusions, transcultural education should be incorporated at both the undergraduate and graduate levels in the educational setting, and in continuing education in the hospital setting.

論文内容の要旨

【目的】 グローバル化が進む中、日本の医療現場でも多様な文化・言語背景をもつ患者が増加している。本研究では、日本の看護職が多様な文化・言語背景をもつ対象者の看護経験をどのように認識し、どのような問題意識をもっているか、また、こうした患者の看護に際し専門職としての自律性をどの程度発揮できているか、さらに、自律性への影響要因について明らかにした。日本の看護職が多様な文化的背景を持つ患者への看護を自律的に行い、看護の質を担保するために、日本の看護職の特徴や病院施設の現状をふまえた具体的提言につなげることを目的とした。

【研究 1】 日韓の看護職の比較を通して、多様な文化・言語背景をもつ患者の看護における日本の看護職の特徴を明らかにすることを目的に、日韓の看護職 15 名に半構造的面接調査を行った。対象者は、日本／韓国の総合病院に 1 年以上継続勤務し、過去 1 年間に 1 名以上の外国人対象者の看護経験を有する看護職者であった。逐語録をデータとしてテーマ分析 (Braun, V., & Clarke, V. 2006) を行った結果、3 つのテーマと 7 つのサブカテゴリが生成された。テーマは Challenges regarding the care of culturally diverse patients (多様な文化的背景を持つ患者の看護における困難)、Important components regarding the care of culturally diverse patients (多様な文化的背景を持つ患者の看護の際に考慮すべきこと)、Deficiencies in nursing education for culturally congruent care (文化に配慮したケアに関する教育の不足) であった。サブカテゴリでは、日本の病院の現状として、外国人患者受入れに際しての看護職への学習機会の提供不足、医療通訳サービスの整備不足が挙げられた。多様な文化・言語背景を持つ患者の看護について日本の看護職は不安を抱き、教育の不足を感じており、普段日本人患者に提供している看護力を発揮できていない可能性が示唆された。

【研究 2】 多様な文化・言語背景をもつ患者の看護における日本の看護職の専門職としての自律性、および自律性発揮への影響要因を明らかにすることを目的とし、無記名の自記式質問紙調査を行った。対象者は、外国人患者を受入れている日本の病院に勤務し、過去 1 年間に外国人対象者の看護経験を有する看護師 380 名であった。回答のあった 265 名の内、完全回答の 238 名 (27 施設) を分析対象とした。自律性および Intercultural Sensitivity の測定には信頼性と妥当性を検証したスケールを使用した。結果、多様な文化・言語背景をもつ患者を看護する際の自律性は、日本人患者の看護に比べ有意に低いことが明らかになった。影響要因に関してステップワイズ法による重回帰分析を行ったところ、看護職経験年数、受持った外国人患者数、通訳サービス利用の可否・効果認識、Intercultural Sensitivity が影響要因となり、中でも Intercultural Sensitivity が自律性発揮の最も大きな影響要因であった。受持った外国人患者数については、人数が多い方が自律性が低いという負の関係であり、「過去の経験が次の看護の質改善に奏功する」という諸外国の先行研究と異なる結果であった。

【結論】 日本人看護職の多様な文化・言語背景を持つ患者の看護における特徴、自律性とその影響要因が明らかとなった。今後は看護職に対して文化の違いへの気づきを促し、Intercultural Sensitivity を向上させる教育を看護の学部・大学院教育および継続教育に取り入れていく必要がある。併せて医療施設は多様な文化・言語背景を持つ患者への医療サービスに関する学習機会の提供や医療通訳サービスの整備に取り組む必要がある。個人と施設がともに取り組むことで、多様な文化・言語背景を持つ患者への看護の質向上が期待できる。

論文審査の結果の要旨

本論文は、急速にグローバル化が進行するわが国において、異なる文化・言語背景を持つ外国人患者の看護における特徴と課題を明らかにしたものである。

論文は 2 つの調査研究から構成される。日韓の看護職を対象として、韓国と比較した日本人看護職の外国人患者ケアにおける特徴を明らかにした質的研究と、日本の看護職を対象とした質問紙調査に

より、Intercultural Sensitivity や異文化体験などの要因が、外国人患者の看護における自律性とのように関連しているかを多様な分析により明らかにした量的研究である。さらにこれらの結果より、外国人患者に質の高いケアを提供できる看護職育成のための教育の在り方に関して考察を加えている。

明確な目的と十分な論理性を持つ論文であるが、調査における「外国人」の定義にやや漠然とした部分が残されている点や、質的研究の分析や本人が日本語化した Intercultural Sensitivity 尺度の分析は、今後のさらなる検討を期待するものである。これらの点は指摘できるものの総括として本研究は、グローバル化した社会において外国人に対してもケアや交流ができる看護職を育成する重要性と方策について、良質のエビデンスをもたらしたものと評価する。

今後も、日本における国際看護学の発展に寄与する研究を推進し、エビデンスを積み重ねることを期待する。